

第 12 回関東 MIST 研究会開催報告

2019 年 3 月 9 日（土）に慶應義塾大学三田キャンパスにて第 12 回関東 MIST 研究会を開催させていただきました。

大学同門会や他の会合がある中、72 名の方々にご参加頂き、無事終了しましたのでご報告いたします。

第 12 回を迎えた今回は、手術手技に特化した研究会であるところに立ち直り、またコンパクトなプログラムといたしました。一般演題では PPS・LIF を中心に 11 演題のご発表を頂きました。演題発表のたびにフロアから多くの質疑が相次ぎ、熱い議論が展開されました。今回は治療に難渋した症例や反省例の報告も多く、忌憚のない意見が飛びました。「これぞ研究会」、と言えるようなども良い討議ができました。

基調講演では船橋整形外科の小島敦先生より、「骨粗鬆症椎体骨折に対する経皮的椎体形成術の限界と工夫」のお話を頂きました。早期から椎体形成術に取り組んできた小島先生の臨床成績と工夫、今後の課題について、大変わかり易くご講演を頂きました。

特別講演では我汝会さっぽろ病院整形外科の長濱 賢先生より「PETLIF（ペトリフ：経皮的内視鏡下 LIF）の開発経緯とコンセプト—腰椎手術における MIST 手技への私見を添えて」についてお話しいただきました。PETLIF の開発のもととなったきっかけや、手技と周辺機器の発展、さらに安全に施行するための臨床研究の成果に至るまでご講演いただきました。メイドインジャパンの手技であり、今後の MIST 手技の代表的な術式となるであろうことが確認できました。

Best paper award には獨協医科大学病院整形外科の竹内大作先生の「先天性側弯症矯正固定術の先行的アンカー作成（高侵襲手術に向けた低侵襲準備の試み）」が選出されました。また Best debate award には終始教育的で、本質をついたコメントを頂いた埼玉県済生会川口総合病院整形外科の新井嘉容先生が選出されました。

また、同時開催されました若手医師対象のレジデントコースは定員を超えた盛況ぶりでした。国立病院機構村山医療センター整形外科の松川啓太朗先生がコ

ースの監修をしていただき熱い指導のもと、CBT、PPS、LIF の手技を体験して頂きました。

第 12 回となる本研究会を成功裏に終えることができたのも、多くの先生方や共催いただいた旭化成株式会社、そして協賛して頂いた企業の皆様のお力添えのおかげと存じます。またご多忙の中、御参加・御発表いただいた皆様には、改めましてこの場を借りて深く感謝申し上げます。

次回となります、第 13 回関東 MIST 研究会は平成 31 年 9 月 28 日(土)に東急病院整形外科の小林俊介会長のもと、東京慈恵医科大学病院で開催される予定です。会員の皆様におかれましては、是非とも参加を検討して頂けましたら幸いです。

第 12 回関東 MIST 研究会 会長
慶應義塾大学整形外科
岡田英次郎

